

早くも陸上競技部通信第2号です。今回はインターハイ県大会の結果を中心に報告します。

この陸上競技部通信ですが、生徒から「名前が硬い…」とさっそくアドバイスをいただきました。そこで、タイトルを募集します！！清水南高の陸上部にふさわしいようなタイトルを考えてください。(部員と保護者限定です。) また、採用された場合には特典があります。ふるってご応募ください。

インターハイ静岡県大会結果

名前の後の () =学年、☆=自己新

トラックの部・予選

(女子)

400m 6組7着 1分04秒12 石ヶ谷侑季(2)
1500m 1組6着 4分56秒43 丸山みなみ(3)
100mH 5組4着 17秒58(-0.8m)高木 遥香(3)
400mH 1組5着 1分11秒61 高木遥香(3)☆
6組3着 1分09秒44 石ヶ谷侑季(2)☆

決勝

(女子)

3000m 26位 10分36秒93 丸山みなみ(3)

フィールドの部

(男子)

走幅跳 18位 6m45(+1.5m) 望月 真(3) ☆
三段跳 5位 14m01(-1.6m) 望月 真(3) ☆(東海進出)

(女子)

やり投げ 11位 35m30 池ヶ谷真帆(2)☆
記録なし 杉本星莉香(3)

混成

男子八種競技決勝

21位 3195点 天野桂太(3)

競技の様子

(1日目)

女子400mの石ヶ谷は8レーンという走りにくいレーンの中で自己ベスト記録にあと少しという走りを見せた。課題としている前半の走りの差が、そのままタイムの差となるレース展開だった。1500mの丸山は、前半積極的に先頭集団についていったが力及ばず、100mHの高木は怪我か

らの復帰レースとしてはまずまずの記録だが、自己記録にはあと一歩及ばなかった。

走り幅跳びの望月は、自己記録を上回る跳躍を見せ、最終日の三段跳びに向けて、明るい材料となった。

(二日目)

400mHでは、高木、石ヶ谷共に自己記録を更新する走りを見せたが、予選通過はならなかった。男子八種の天野は最初の種目の100mで自己記録を更新し、好調な滑り出しとなった。

(三日目)

早朝からの開始となった女子やり投げでは、杉本の調子が上がらず、飛距離は出ていたが、やりが後ろから地面についてしまい記録なしに終わった。池ヶ谷は35m30と中部予選での自己記録をさらに2.5mほど更新した。例年であれば東海大会へ進出できる記録であったが、本年度は女子やり投げのレベルが上がってきており、東海進出はならなかった。

女子3000mの丸山は、スタートで出遅れて集団から抜け出すことができず、集団の中で体力を消耗してしまった。しかし、集団が崩れてからの最後の追い上げでは持ち味を出すことができた。

男子三段跳びの望月は、1、2回目の跳躍ではベスト8が危ぶまれたが、3本目に14m00を跳び、第2位で4回目に進んだ。6回目の跳躍で14m01に記録を伸ばしたが、他の選手も記録を伸ばしたため、最終的には第5位で東海大会への進出を決めた。

男子八種の天野は、やり投げで42m18と、個人のやり投げでも県大会へ進出できるほど投げ、最終種目の1500mで一時はトップを走る見せ場を作った。

